

校長室から応援メッセージ(7)

令和4年12月2日(金)

「振り返ると一本の道が・・・」

皆さん、こんにちは。前回の話の中で、受験当日まで無心で駆け抜けてください、と申しあげました。しかし無心で、と言われても、人間である以上、なかなか無心にはなれません。でもそれでいいのです。たとえ雑念だらけでも、その雑念の中を堂々と生きる、その姿は無心で生きる姿に重なります

将来の自分をあれこれ想像してワクワクする、これは若者の特権ですが、今の皆さんは期待よりも不安の方が大きいかもしれません。でもどんなに不安で迷いを重ねても、将来の時点に立って振り返れば皆さんが歩んできたあとは、一本の真っ直ぐな道になっています。真っ直ぐかどうかはともかく、一本であることは間違いありません。上半身がこっちの道を行き、一方その頃、下半身はあっちの道を・・・、などということはありません。

私は高校で生徒諸君に話をする時、「振り返ると一本の道が」というフレーズをよく使いました。私自身も人生を振り返ると、長い道が見えてくるのですが、道とはもう過ぎてしまっても変えることのできない、眺めることしかできない、固定して静止したものではなく、今の自分に向かって絶えず生き方を問いかけ続ける、動的でダイナミックなものとして存在しています。

そのため人生の本質は、振り返る道の方にあるのではなく、振り返るたびにその道から受け取るメッセージにある、と考えます。一本の道は躍動し、今も生きていて、おしゃべりなのです。皆さんは、今ここで過ごしている山梨予備校生としての毎日を将来振り返った時、どのようなメッセージを受け取るでしょうか。限りない勇気を受け取ることになる、と私は信じています。

新しい年の初めに、山梨予備校入り口に年頭のあいさつを掲示します。偶然目に入ってしまったら仕方なく読んでください。去年は新しく迎える寅年に因んで、近所の飲食店のメニューで気になっていたまま閉店してしまい食べそびれた、とんかつラーメンの「と」と「ら」を重ねて激励しました。かなり無理があり、よくわからない激励で不発でしたので今年は挽回します。

毎回の私の話はわずか数分で終わるものですが、それなりに時間をかけて準備します。この手間はできれば省きたい、とは思いません。予備校の使命を考え、確認することのできる大事な時間になっているからです。皆さんの入試本番はあっという間に終わりますが、その準備のために費やす膨大な時間、そこに本当に大切なものがあるのと同じです。受験生として過ごす、かけがえのない時間を大切にしてください。皆さんの健闘を祈ります。